

VASCULAR ACCESS NEWS Web Vol.25

第62回日本透析医学会学術集会・総会
コヴィディエンジャパン(株)展示ブースセミナーVer.1

当院における安全対策と 改善に向けての取り組み ～よりよい透析室をめざして～



社会医療法人 弘道会
寝屋川生野病院 血液浄化室
中迎由美子先生

はじめに

当院は2013年8月、大阪の北東部に位置する寝屋川にオープンした103床の二次救急病院で、多様な診療科において幅広い医療を提供しています。近隣にはグループ関連施設として、老人保健施設や特別養護老人ホーム、PETクリニック、ストレス疾患治療研究所など21の施設を有し、医療、介護、福祉と全面的に対応しています。

当院の血液浄化室は、個室2室を含む40床で、全台においてオンラインHDFが可能となっています。グループ内で初めての透析室として、患者・医療従事者ともに安心・安全な透析室を目指し、感染対策・医療安全対策に力を注いでいます。

ガイドラインで勧告されている予防策が基本

当院では「透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン(四訂版)」を基に安全なシステムづくりに取り組んでいます。

煩雑な業務の中忘れがちな手指衛生の重要性を再認識できるよう、ポスター掲示や朝のミーティング時に復唱しています。また、各自擦式アルコール製剤を携帯し 毎月個人別の擦式アルコール製剤の使用量をグラフ化し掲示、またスタッフ同士で声をかけあうなど手指衛生の遵守率向上にむけ取り組んでいます。手荒れをおこして手指衛生を行にくいスタッフに対して保湿剤を配合したアルコール製剤の選択や、作業の妨げとなりにくいハンドローションを設置し、手荒れ予防についての正しい知識をスタッフへ日ごろから指導しています。

ゴーグルの着用の必要性を、スタッフをモデルとしたポスターを作成・掲示し、また掲示内容も2～3ヵ月ごとに随時更新して、意識を変えるようにしています。最初は着用に抵抗感を示すスタッフもいましたが、ゴーグルの形状を変え、穿刺前や回収前にリーダーが配布することで着用率もあがりました。また着用していないスタッフに対し、気づいた人が肩をポンと叩くというルールやPPEの着脱や必要性について勉強会をかさねることでさらに着用率があがり、現在では各スタッフが自主的にゴーグルを使用するようになりましました。



事前に手指衛生を行い、プラスチックエプロン、サージカルマスク、ゴーグルまたはフェイスシールド、ディスポーザブル手袋を装着する



手指衛生を徹底するため、アルコール製剤は常に携帯している

全面的な安全器材の導入

ガイドラインに、「安全装置付穿刺針の使用が望ましい」とあるため、安全面や使用感など考慮し、逆流防止弁付安全針を採用しました。肝炎ウイルス保持者のみならず、未知のウイルスの存在も考えられるため、すべての患者に使用しております。オープン4年目の現在まで 血液浄化室での針刺し事故ゼロをキープできています。穿刺針のみならず、採血ホルダー、薬剤吸引時のプラスチック製針など全面的に安全器材を導入しています。またミキシングは別区画のミキシング台だけで行い、一旦透析フロアに出した薬剤はもとにもとさないとというルールを徹底しています。安全器材を導入しても、正しく使用しなければ意味がありません。安全器材を導入しているから大丈夫と安心せず、正しい使用方法を確実に身につけ、有効に活用することが大事です。



プラスチック製カニューラ

穿刺針の安全な廃棄方法

ガイドラインに「使用後の穿刺針内筒はリキャップせず、職員の針刺し切創を起こさないように耐貫通性専用容器に入れて感染性廃棄物として廃棄する」といわれています。使用済の針の廃棄について独自のワゴンを作成し利用しております。ワゴン上段は清潔エリア、下段は不潔エリアとし、下段に針廃棄ボックスや感染性医療廃棄ボックス、使用済みの鉗子や駆血帯の回収ボックスを設置しています。以前に使用していた針廃棄ボックスは針廃棄後の蓋の開閉がしにくいという意見もあり、針廃棄ボックスの形状を変更し、フタを1回ごとに閉める、ボックス内の廃棄物が80%以上にならない、決められたエリア内での使用などルールを決めています。またワゴン側面にはPPEを設置し、PPEを使いやすい環境を整えております。透析フロアにおいてもゾーニングを強化しており、透析フロアを不潔エリアとし、不潔エリアから清潔エリアへの物品移動を禁止しています。感性制御においてゾーニング（清潔/不潔）を意識することが大切です。



感染制御は、ゾーニング（清潔/不潔）を意識することが大切



安全対策を強化するために改良されたワゴン

ミーティングを開催して情報を共有

医療事故対策として、チームワークが大変重要なポイントとなります。事故対策として毎週1回、医療安全ミーティングを開催し情報を共有し、全スタッフが同じ認識を持って業務にあたれるように努めております。ミーティング形式も話を聞くだけの受け身形式でなく参加型（ディスカッション形式）としております。透析経験経歴の有無は関係なく全スタッフがそれぞれ意見を出しやすいような雰囲気作りに重点を置き、広い視野で物事をとらえ分析できるように工夫しております。透析医療事故のなかでも、抜針事故が4割近くを占めると報告されていますが、当院では開院以来、抜針事故ゼロを継続中です。抜針のリスクが高い高齢者や認知症の人に対しても抑制帯の使用はしておりません。抑制帯を使用せず、すむ穿刺部位の選定や血液回路の固定方法などカンファレンスにて話し合い、透析中のシャント肢の関節の動きを大きく制限することで、透析による違和感や苦痛がないようにしています。テープでの固定方法も重要ですが、テープを多く貼ることで皮膚への負担も増すため、ポイントをしっかりと押さえるようにしています。現在使用している逆流防止弁付安全針では、25mmのテープ幅がフィットし固定性を高められます。



クランプが必要な穿刺針は、25mmテープがクランプ部分にかかる



逆流防止弁付安全針（単回使用透析用針）は接着面積が拡大し、テープの固定性がアップ

穿刺における安全対策

当院では、すべての患者に安全針を使っています。確実な血管へのアプローチのためにシリンジ付きの安全針を採用しております。また穿刺針のカラーで使用ゲージも識別しやすいため、穿刺針の選択ミスもありません。確実な穿刺を提供できるよう、各スタッフの穿刺レベルを初級・中級・上級と分類、また患者の難易度も評価・分類し、患者にもスタッフにも穿刺に対するストレスを軽減できるように工夫しております。定期的に穿刺技術力をチェックし、レベルアップのためのトレーニングも行っております。またシャント肢の写真や血管エコーでの可視化にて、患者のシャントの情報も共有しています。また、患者の透析開始時間を予約制にし、スタッフが焦らず余裕をもって穿刺作業にあたるようにしています。そのような取り組みを実践することで、患者から穿刺順や穿刺待ち時間が長いといったクレームもなく経過しております。ガイドラインに沿ったシステム作りをすることで、患者の安全が優先されるだけでなく、スタッフの感染対策も積極的に行われ、安全な環境での従事が保たれます。その結果、スタッフの環境満足度もアップし、さらに仕事のやりがいへとつながり、よい透析を患者に提供できるようになります。

コヴィディエンジャパン株式会社

お問い合わせ
0120-998-971

medtronic.co.jp

Medtronic